

ドパミントランスポーターシンチグラフィにおける特異的結合比の施設間差と標準化の検討

－線条体ファントムを用いた多施設共同研究－



日本核医学技術学会
北陸地方会

定量指標の算出とその問題点

SBRは,

収集時に用いる装置,

コリメータの種類などの収集条件,

画像再構成のパラメータの設定,

の違いにより, 定量性が大きく変化する^{1~4)}

1)藤田尚利, 他 : 核医技 2016 ; 36(2): 177-187.

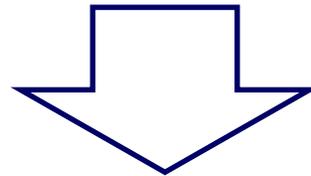
2)Koch W, et al. J Nucl Med 2005; 46 (11): 1804-1811.

3)Bienkiewicz M, et al. Nuclear Med Rev 2008; 11(2): 53-58.

4)Dickson JC, et al. Eur J Nucl Med Mol Imaging 2010; 37(1): 23-35.

定量指標の算出とその問題点

現在、全国の施設で所有している核医学装置の種類は多岐にわたり、収集条件、再構成条件はその施設に委ねられているのが現状



すなわち、
同一患者でもあっても、異なる施設で検査を行えば、異なるSBRが算出されてしまう。

概要

－多施設共同研究のタイトル－

ドパミントランスポーターシンチグラフィにおける特異的結合比の施設間差と標準化の検討

－線条体ファントムを用いた多施設共同研究－

概要

－ 研究班員の総意 －

- 患者が全国どこの施設で検査を行っても、同じ診断が可能な画像情報を提供するべき。
- SBRの値が診断に用いられる以上、その値の標準化は必要で、少なくとも診断に差が生じないような対策を講じるべきである。

概要

－多施設共同研究の目的－

- 北陸地区にて行われているダットスキャン検査により算出されるSBRのばらつきの程度を把握すること。
- またそのばらつきにより診断に差が生じないような対策を提案すること。

概要

－実施計画書，実験手順書－

ドパミントランスポートシンチグラフィにおける特異的結合比の施設間差と標準化の検討
－線形体ファントムを用いた多施設共同研究－

多施設共同研究実施計画書

研究班代表者 奥 康博
研究班員 北 卓延
 遠谷 孝行
 柏屋 総一郎
 梶田 大雄

※実施計画書および実験手順書は，お渡しすることが可能です。
実験参加を検討されている施設の方は，北陸地方会事務局にご連絡ください。

2016年8月8日 実施計画書(案)作成
2016年9月15日 実施計画書 Ver.1.0 作成

ドパミントランスポートシンチグラフィにおける特異的結合比の施設間差と標準化の検討
－線形体ファントムを用いた多施設共同研究－
(原)

実験手順書

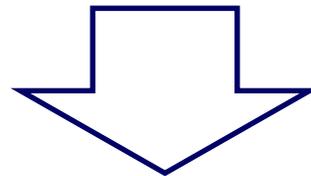


2016年8月22日 実験手順書(案)作成
2016年9月15日 実験手順書 Ver.1.0 作成

概要

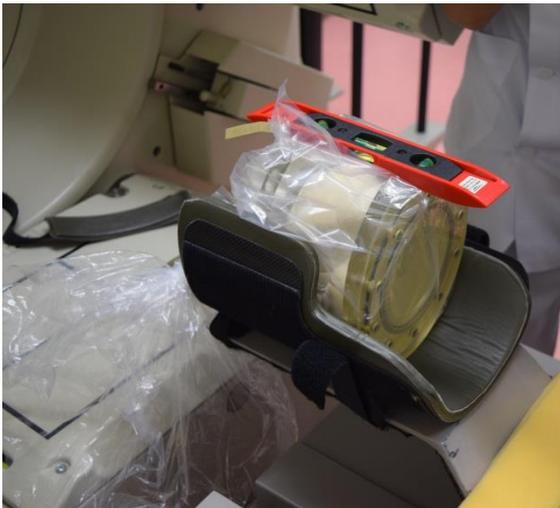
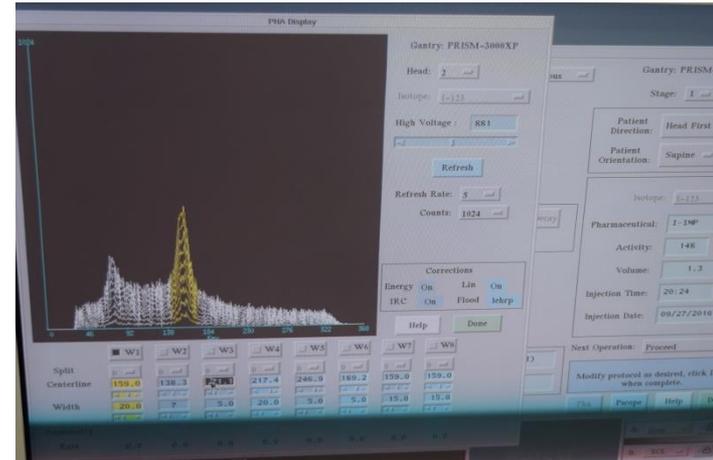
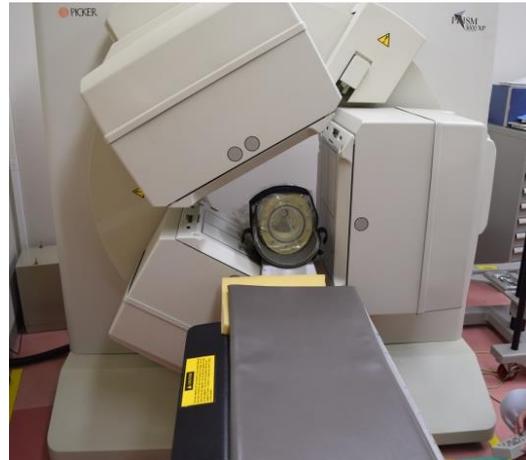
-コンセプト-

- ▶ より再現性のよい実験系の構築
- ▶ 多くの施設に参加してもらうことを重要視



実行性の高いプロトコル
(シンプルなプロトコル)

実際の実験の様子



-実験の際には、研究班員が1名以上立ち会います-

実験の再現性の確保のため、また実験に不慣れな方でも安心して参加していただくためです。

現在，実験参加施設の募集を行っております。

北陸地区の方でご興味のある方は、
北陸地方会事務局まで是非ご連絡ください。

研究班員に知り合いがいらっしゃる場合には直接研究班員にご連絡いただいても構いません。

北陸地方会事務局

JSNMT-hokuriku@umin.ac.jp

研究班員

奥 康博	(厚生連高岡病院)
堀田 大雄	(富山大学附属病院)
澁谷 孝行	(金沢大学)
柏屋 総一郎	(金沢市立病院)
井坂 雅人	(浅ノ川総合病院)
小野口 昌久	(金沢大学)
斉藤 真樹	(市立敦賀病院)
北 章延	(福井大学医学部附属病院)

